

温室効果ガス排出量等検証報告書

アズビル株式会社 様

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、アズビル株式会社が作成した「アズビルグループ 2017 年度集計結果(Scope1・2)」及び「スコープ 3 CO2 算定書 計算編(rev.9)」(以下、「算定報告書」という。)に記載された2017年度のスコープ1、2、3温室効果ガス排出量が、同社により作成された「環境パフォーマンスデータ算定ルール(Scope1, 2)」及び「スコープ 3 CO2 算定書 解説編(rev.9)」(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2017年度とは、国内サイト:2017年4月1日～2018年3月31日、海外サイト:2017年1月1日～2017年12月31日までの期間をいう。検証の目的は、「算定報告書」を客観的に評価し、同社の温室効果ガス排出量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、「ISO14064-3」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、スコープ1、スコープ2、及びスコープ3(カテゴリー1～7、11、12)とし、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は総排出量の5%とした。また、スコープ1及びスコープ2に係る本検証業務の対象組織範囲は、アズビルグループにおいて事業活動を行う国内外拠点171サイトとした。現地検証に先立って、「算定ルール」確認のために環境推進部における検証を実施し、サンプリングにより4サイトと環境推進部(スコープ3)にて現地検証を行った。現地検証では、算定対象範囲の確認、スコープ1及びスコープ2においては温室効果ガス排出量に係る排出源及びモニタリングポイントの確認、また、スコープ3においては温室効果ガス排出量に係る算定シナリオとアロケーションの確認、算定集計体制の確認を行い、排出量データについては、担当者へのヒアリング、記録の確認、根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした「算定報告書」の2017年度の温室効果ガス排出量スコープ1、スコープ2、スコープ3において、「算定ルール」に準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

「算定報告書」の作成責任はアズビル株式会社にあり、温室効果ガス排出量の検証の責任は当機構にある。アズビル株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目25番地

一般財団法人日本品質保証機構

理 事 浅 田 純 男

